早慶ファンわく花園

関西ラグビーまつり

「選手の気持ち伝わった」

ラグビー教室で、大きな選手をタックルで倒す子供＝東大阪市の近鉄花園ラグビー場で

東大阪市の近鉄花園ラグビー場で15日に開かれた「第５回関西ラグビーまつり」（関西ラグビーフットボール協会、毎日新聞社主催）。大学ラグビーの名門、早稲田大や慶応大のプレーを間近に見られるとあって大勢のファンが駆け付け、熱い声援を送った。

メーンの試合では昨季の関西大学王者の関西学院大と慶大、同志社大と早大がそれぞれ対戦。早大の試合を見てラグビーファンになり、この日は慶大の友人の応援に来た豊中市庄内の保育士、田中綾さん（20）は「選手の気持ちが伝わってくるのがラグビーの魅力。公式戦でも頑張って」とエールを送った。

さらに、ＯＢによる早慶戦も花園では10年ぶりに開かれ、早大が28―22で慶大に逆転勝ち。決勝のトライを決めた兵庫県姫路市の会社経営、中島誠一郎さん（39）は「慶応にはＯＢ戦でも負けたくなかった。ラグビー人口拡大のため、今後もプレーを続けたい」と話した。

ちびっこ対象の教室も

また、人工芝グラウンドでは、今季からトップリーグに昇格したＮＴＴドコモレッドハリケーンズによるラグビー教室があった。小学生以下の約60人が大きな選手相手に体をぶつけた。大阪市港区弁天の小学３年、北木日奈子ちゃん（９）と同市大正区泉尾の同、長濱あすかちゃん（８）は「選手は体が大きくて怖そうだったけど、話せば優しかった」と笑顔を見せた。【稲生陽】

スクラム

被災地への募金を呼び掛けるトップリーグの選手たち＝東大阪市の近鉄花園ラグビー場で15日、小川昌宏撮影

ラグビーまつりで被災地支援

花園・好カードに5700人

「第5回関西ラグビーまつり」（関西ラグビーフットボール協会、毎日新聞社主催）が15日、東大阪市の近鉄花園ラグビー場であった。関西で見る機会の少ない関東勢の早稲田大と慶応大が同志社大、関西学院大とそれぞれ戦う東西対抗戦を披露、約5700人の観客を沸かせた。会場ではトップリーグ（TL）の選手らが東日本大震災の被災地のために募金も呼び掛けた。

募金にはTLの6チームや大学生らが参加。NTTドコモレッドハリケーンズの平瀬健志主将(26)は「現地に行くことは難しいが大阪から元気を送りたい」と元気良く募金を呼び掛けた。大学ラグビーのファンという大阪府豊中市の会社員、大久保健さん(54)は「大学選手権でもなかなか見られないカードが1日に2試合も見られて大満足」と話した。

試合後にはTL選手のサイン入りグッズのチャリティーオークションもあった。集まった募金、オークションの売り上げ、イベントの収益金の一部は毎日新聞大阪社会事業団を通じて、被災地に送られる。【津久井達】